

関ヶ谷自治会 『防災訓練』報告

防災ボランティアグループ代表 徳岡正彦

9月20日(関ヶ谷地区防災訓練)では自治会役員・地区長・班長・自治会員・防災ボランティア等多くの地域住民皆さんが積極的に参加して安否確認訓練が実施されました。

その結果、タオル等での確認・インターフォンでの応答確認で合計959軒(85%強)の安否確認が出来ました。

なお、要援護者は111軒で、応答等の確認は101軒(91%)でした。

向こう三軒両隣・班長・地区長による安否確認(近助)と言心がけと仕組みが定着しつつあると思われま

す。

防災ボランティア関係

今年の防災ボランティアの安否確認活動は、地区長・班長の安否確認を支援し、更にインターフォン応答の無かった要援護者のお宅を(10軒を訪問し、災害時に行う再度の安否確認活動に変えて、本日、訪問しましたが留守でした。皆で見守っています。」旨のメッセージカード(下記写真参照)のポスティングをしました。



本日(9月20日)関ヶ谷自治会の防災訓練を実施いたしました。訓練内容は、大災害が発生した時に備えて、班長さんを中心にご近所の安否確認を行うものです。

その際留守等で在宅の確認が取れなかった方への御挨拶です。私たちが地域で防災に携わる者として万一災害が発生した場合、要援護を望まれている方には安否の確認が取れるまでお電話をさせて頂くなど、心配いらないようにお話をさせて頂くつもりです。

今後とも皆様方には取組む防災活動に際してご理解とご協力をお願いいたします。

意見交換会での防災ボランティア関係の主な意見と見解

質問：防災V.Gは要援護者を支援するとして、いるが防災V.Gのメンバーには誰が要援護者であるか知らされていないために有事の時にどうするつもりか？

回答：現状において個人情報との関係で要援護者の名簿は防災V.Gのグループリーダーまでまでに止めているが、11月に実施する民生委員・自治会のアンケートでは事前開示が出来るといふことになりそうです。よって、アンケート回収後、名簿を整備して1月初めには要援護者の名簿を防災V.G各分担区域に分けてお渡しいたします。

質問：防災V.Gは要援護者だけを支援するのか？ 要援護者以外はどうするのか？

回答：要援護者については防災V.Gとして優先度が高いが、その他の人もその時の状況必要に応じて支援します。また、自治会としては班長・地区長が全住民を対象に支援していきます。

質問：最寄りの防災ボランティアグループのメンバーの名前を知らせて欲しい。

回答：総会開催案内と共に各グループに防災V.Gの名簿を配布します。

質問：要援護者の方に防災V.Gの担当名を知らせてほしい。

回答：今後の検討課題とします。



防災V.G今後の課題

防災V.G代表 徳岡正彦

防災V.Gは今年度も自治会の防災訓練と一体化した活動を実施しました。

ここ数年の自治会防災訓練の結果、安否確認については自治会の組織(班長・地区長)が主体となつて行うという態勢が確立し、大きく前進しました。

その結果、防災V.Gは従来の安否確認センターから新たな役割をもって防災に備える必要があると考えています。

具体的な共助の活動として①救助・医療②消火③情報通信・電気④食糧・物資等基本的に言われている役割があります。今後、前述の幾つかの役割を持ったチームを立ち上げたいと考えています。月次の役員会等で検討し、1月の総会において具体的な提案をしていきます。

防災V.Gの活動を大きく広げる議論ですので、皆様の総会での積極的な議論を期待します。

M8級地震、30年以内に5%の確率 M7級は70%！相模トラフの地震発生率が上

政府の地震調査会は5月25日、相模湾から房総沖に延びる相模トラフ沿いで将来起きる大地震の発生確率を発表した。

関東大震災に匹敵するマグニチュード8級の地震が30年以内に起こる確率は5%にUP(以前は2%)、M7級は70%とした。東日本大震災を機に見直したものである。

また今回は震源域を前回予測に比べ下図のようにならび、広がった。(日経新聞より抜粋)

地震の種類	規模	30年以内に起こる確率
元禄地震	M8.1	0%
関東大震災	M7.9	0~2%

地震の種類	規模	30年以内に起こる確率
相模トラフ沿いのM8級の地震	M7.9~8.6	0~5%

防災アイデア

子育てコラム *小さなお子さんのいる家庭での地震対策*

もし地震があったらどうするのか？家で二人の時は？お出かけしている時は？地震はいつ起きるか分かりません。子どもを守るためにも、普段から「もしものときは」と考える習慣をつけましょう。

1 いざという時の避難場所を知っていますか？
家族との連絡方法や、待ち合わせ場所、避難場所とルートを確認し、「我が家の防災マニュアル」を作ってみましょう。
また、地域の防災訓練に参加しましょう。日頃から近所の人達と顔見知りになり、子どもがいる家庭だということを知っておいてもらうことも大切です。

2 子ども用に準備しておいた方がよいもの
~非常用持ち出し袋の中身~赤ちゃんの場合(一例)

- 紙おむつとビニール袋(捨てる用)**
3日分は必要です。サイズを定期的にチェック!
- 粉ミルク&プラスチック哺乳瓶**
ショックで母乳の出が悪くなることも。
- 消毒剤**
哺乳瓶などを消毒するのに必要。水に溶かして使えるタブレットタイプがおすすめ。
- おもちゃ**
赤ちゃんの気分転換になります。音の出ないものであれば周りに気を遣いません。
- だっこひも**
避難にベビーカーは危険です!だっこひもは必ず。
- 離乳食**
レトルトのもの、今の月齢と少し先のもの両方があると安心です。

飲料水や懐中電灯などに加えて準備しましょう

参考:危機管理研究所ホームページ http://www.kunizakinoue.com/boasai/protect_child.html

ポイント1 最低でも3日間過ごすためには何が必要か、家庭で話し合いました。

ポイント2 優先的に持ち出すものは、「子どもを抱っこした上で、運ぶことができる重さ」とし、リュックなど両手が見えるものに準備しておきましょう。

☎こども家庭支援担当 ☎788-7728 ☎788-7794



地震基礎知識

『防災だより』三号では大震災時に、最も基本的になる生命維持の観点から書きました。引き続き、大震災時にどのような事が起きるか？それに対し、何をしなければならないか考えます。大震災時に身を守る行動は取れません。日頃の備えが必須です。 (防災VG 前代表：小西 義一)

『防災だより第3号』では、まず自助(自分の身は自分で守る)の観点から、大地震に備えて生命維持に必須のものは何かを考えて準備しておく物を書きました。

そしてライフラインについては、阪神淡路大震災の時の復旧の状態から見て首都圏直下型地震の場合はその比で無く難しいことを書きました。それらの事を考えている中に私は大きな疑問が一つ頭から離れません。

それは何か

「一」はライフラインについてです。中央防災会議は備蓄は七日分必要だと言っています。では、ライフラインは七日以内に復旧するのでしようか？例えば電力はどうなのか？阪神淡路大震災の時は原発は無傷で稼働していましたが、火力発電も地震地域外で、影響は殆どありませんでした。

しかし、もし首都圏直下型地震が発生した場合はどうでしょう。火力発電は首都圏の東京湾岸に集中しています。しかも老朽化の発電設備も多いと聞いています。どうするのでしょうか。電力・ガス・上下水道の復旧の用途は各々何か月かを目標としているか、このことを横浜市市民提案箱に投書して聞いてみるつもりです。この件は別の機会に報告したいと思っています。

「二」目は首都圏直下型の大地震発生したとき、どのようなことが起きるかを想定し、最終的には何をしなければならぬかを考えてみたいと思います。

大地震発生時、どこに居るか解りませんが、自宅に居るケースを考えたいと思います。そこで、まず昨年配布された横浜市作成の「我が家の地震対策」13頁を開いてみましょう。

「その場にあった身の安全とは」の見出しの第1は「自宅にいるとき」

1. クッションや布団など、頭を守る。
2. 机の下に身を隠す。
3. ガラスの破片などでケガをしないよう注意する。
4. あわてて外に飛び出さず、ドアや窓を開けて出口を確保する。

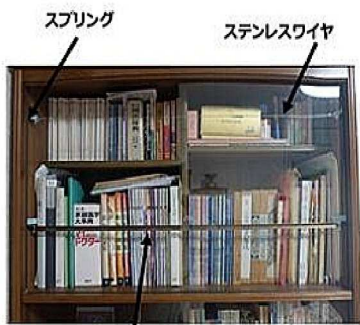


そのように書かれています。国の指針も同様です。だが、しかし、少し意地悪な見方をすると、ちよとどその時手の届くところにクッション等があれば良いのですが、何時もそのような場所に居るとは限りません。就寝中は別ですがつかまろうとしても机やテーブルの方が先にすっ飛んでしまいます。注意する前にガラスの破片が飛んできます。激しく揺れている間は動くことができません(数秒間)。

地震の場合、自然現象なので前後・左右・上下の全方向から全く予想できないで突然襲ってくることに對して人間は防衛できず無力だと考えられます。

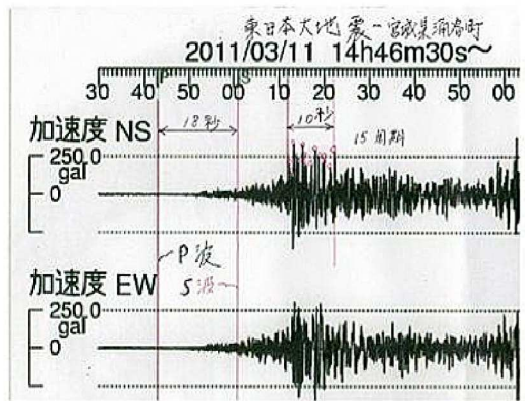
6月に県の防災センターを見学し「振動体験室」で震度6では動くことができないことを参加された方は実感されたと思います。

「何が何だか解らないうちに家中の物が飛び交い、気が付いたら家中のガラスは全部飛び散り足の踏み場もなく只呆然とした」ある新聞の広報誌に掲載された体験談から抜粋した記事をご覧下さい。体験者は当時書屋にお住いの映画監督の大森一樹氏は次のように語っています。



アルミ製L型バー

これらことから先の4項目の実行はどう見てもできそうにありません。もう一つ別の見方ですが、大地震の震動波の激しさと力の大きさを考えてみます。



右図は、東日本大震災で宮城県蒲谷町の地震計が記録した地震動のグラフです。その時の揺れの時間をグラフから目で読み取ると、概略ですが

東日本大震災・震動周期は1回0.5秒
阪神淡路大震災・震動周期は1回0.15秒

この様に震動周期が短いということはそれだけ揺れが激しいことを物語っています。また緊急地震警報が発令されるP波と本震のS波の時間差は東日本の場合、18秒・阪神の場合僅か2秒です。人間の感覚が追いつかない短時間の間に地震の大きな揺れがやってきます。

それと周期が短いことは地震動の加速度が大きく、物体に加わる力が強い事になり(マグニチュードとは違います)、いろいろの物が飛ばされます。

そこで対策は
常時いる場所・リビング・食堂・寝室には出来るだけ家具を置かないことが理想ですが、日本の住宅では不可能なので現実的対策の

- 第1は家具の固定対策と転倒防止対策です
- 第2は本棚・飾り棚・食器棚の中身が飛び出さない工夫が必要です

第3は本棚の場合ガラス扉に飛散防止フィルムを張り付けるか飛び出し防止の棧を取り付ける方法が考えられます。上図は見本です取り外し・取り付けは、ワンタッチで簡単に作っております。

地域防災拠点訓練

防災部・防災ボランティアの今後の活動予定

- 地域拠点防災訓練：12月6日(土)
- 防災ボランティア総会：1月17日(土)
於：釜利谷西小学校
- 防災だより7号：2月15日予定
- 防災倉庫棚卸し兼備品動作テスト：3月予定
- 会計監査・来年度活動計画立案：3月予定
- 防災会議、防災ボランティア役員会議：毎月実施



実施日 12月6日(土曜日)
実施場所 釜利谷西小学校
雨天決行
(一時避難場所に集合後移動)

対象者 関ヶ谷・夏山・山の手
地区 全住民

訓練内容
①避難者カードの受付・集計
②住所スペース確保・区割
③仮設トイレ組立・炊き出し
④資機材庫・防災備蓄庫見学
等